

I 調査結果の概要

営農類型別経営統計
(水田作経営)

1 調査結果の概要

(1) 組織法人経営（水田作経営）

平成16年の全国1組織当たり農業粗収益は3,724万円、農業経営費は2,767万円、農業粗収益から農業経営費を差し引いた農業所得は957万円となった。（図1、表1参照）

(2) 任意組織経営（水田作経営）

ア 平成16年の全国1組織当たり農業粗収益は1,323万円、農業経営費は822万円、農業所得は501万円となった。

イ この任意組織経営のうち、水田作作付延べ面積20ha以上層の集落営農の農業粗収益は3,454万円、農業経営費は2,110万円、農業所得は1,344万円となった。（図1、表1参照）

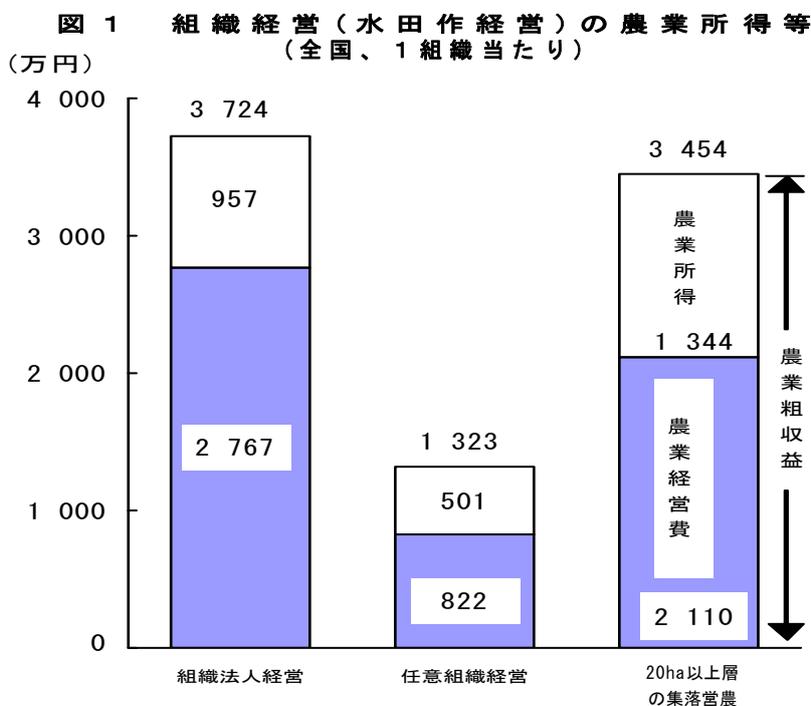


表1 組織経営（水田作経営）の農業経営収支等（全国、1組織当たり）

区分	単位	組織法人経営	任意組織経営	20ha以上層の集落営農
農業粗収益	千円	37,242	13,226	34,536
農業経営費	〃	27,669	8,215	21,098
農業所得	〃	9,573	5,011	13,438
(農業付加価値額) ⁽¹⁾	〃	15,788	5,663	14,675
経営耕地面積	a	2,896	1,561	3,337
うち借入地	〃	2,412	478	1,056
水田作作付延べ面積	〃	2,875	1,389	3,631
農業投下労働時間	時間	5,931	1,999	4,216
うち構成員	〃	3,706	1,854	3,738

注：1) 農業付加価値額：農業所得＋雇用労賃＋支払地代＋負債利子

2 組織法人経営の営農類型別結果

営農類型別にみた平成16年の全国1組織当たりの農業所得は、経営規模に差があるものの好調な市場価格を反映して肥育牛経営が3,996万円で最も多く、次いで酪農経営が1,915万円で、最も少ない果樹作経営は233万円となった。(表2参照)

これを、構成員農業労働1時間当たり農業所得でみると、肥育牛経営が7,714円で最も高く、次いで養豚経営の5,207円となり、最も少ない果樹作経営は371円となった。(表2参照)

表2 組織法人経営の営農類型別にみた農業所得等(全国、1組織当たり)

区 分	構成員 農業労働時間	農業粗収益	農業経営費	農業所得	構成員農業労働 1時間当たり
	時間	千円	千円	千円	円
水田作経営	3 706	37 242	27 669	9 573	2 583
畑作経営	7 306	42 073	29 229	12 844	1 758
露地野菜作経営	8 508	38 615	31 394	7 221	849
施設野菜作経営	5 994	48 516	42 538	5 978	997
果樹作経営	6 275	23 818	21 490	2 328	371
施設花き作経営	7 584	99 632	86 761	12 871	1 697
酪農経営	7 297	154 740	135 590	19 150	2 624
繁殖牛経営	7 740	44 352	32 065	12 287	1 587
肥育牛経営	5 180	301 927	261 969	39 958	7 714
養豚経営	2 444	575 382	562 657	12 725	5 207
採卵養鶏経営	3 751	561 050	546 460	14 590	3 890
ブロイラー養鶏経営	5 795	172 901	155 471	17 430	3 008

3 水田作経営における任意組織経営と個別経営の比較

全国の販売農家数の約6割を占める水田作経営について、任意組織経営と個別経営を比較した。

任意組織経営の平成16年の全国1組織当たり経営耕地面積は1,561aである。また、任意組織経営の構成農家（任意組織への参加農家）は24戸であり、これらの農家がそれぞれ別々に農業を行ったと仮定した1農家当たりの経営耕地面積は65a（ $1,561\text{ a} \div 24\text{ 戸}$ ）となる。これは、個別経営の水田作作付延べ面積規模0.5ha未満層（以下「個別経営の0.5ha未満層」という。）の経営耕地面積（66a）と概ね一致するため、この階層の個別経営と任意組織経営全体の平均を比較した。

個別経営と任意組織経営では、同じ水田作経営であるものの、作付けている作物に違いがあること等により一概に比較することはできないが、個別経営の0.5ha未満層は、農業以外で所得を得ているため、農家1戸当たり農業所得はマイナス8万円となっている。これに対し任意組織経営では、スケールメリット等によって農業経営費が個別経営の0.5ha未満層に比べ小さいことなどにより、構成農家1戸当たり農業所得は21万円となっている。

これを、構成員農業労働1時間当たり農業所得（個別経営は「家族農業労働1時間当たり農業所得」（以下同じ。））で比較してみると、個別経営の0.5ha未満層はマイナス157円であるのに対し、任意組織経営は個別経営の0.5ha未満層よりも効率的に作業が行われているため労働時間が少なく、2,703円の水準となっている。（図2、表3参照）

図2 任意組織経営及び個別経営の0.5ha未満層の農業所得

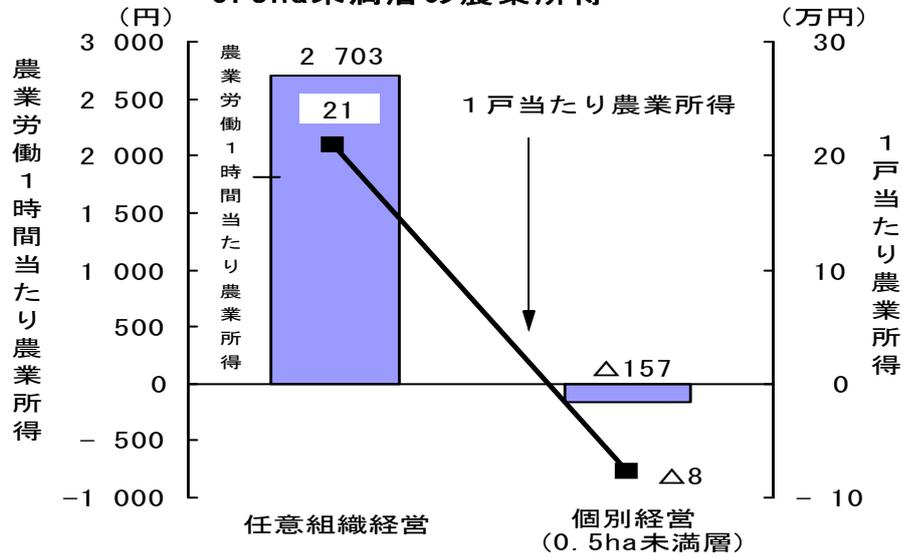


表3 水田作経営の任意組織経営及び個別経営の0.5ha未満層の概要

区分	単位	任意組織経営		個別経営 0.5ha未満層 ②	指数 ① / ② × 100	
		1組織当たり	構成農家 1戸当たり ①			
経営概要	経営耕地面積	a	1 561	65	66	98
	水田作付延べ面積	〃	1 389	58	33	176
	稲作付面積	〃	535	22	32	69
	構成農家数	戸	24	—	—	—
農業収支	構成員(家族)農業労働時間	時間	1 854	77	497	15
	農業粗収益	千円	13 226	551	503	110
	農業経営費	〃	8 215	342	581	59
	農業所得	〃	5 011	209	△ 78	—
	構成員(家族)農業労働1時間当たり	円	2 703	2 703	△ 157	—

4 水田作経営における任意組織経営のうち集落営農（20ha以上層）と個別経営の比較

平成19年産から導入される品目横断的経営安定対策における加入対象者のうち「特定農業団体又は特定農業団体と同様の要件を満たす組織」の規模要件は20ha以上を基本とされており、概ねこれと同等と考えられる水田作作付延べ面積20ha以上層の集落営農（以下「集落営農」という。）について個別経営と比較した。

集落営農の平成16年の全国1組織当たり経営耕地面積は3,337aであり、これを構成農家数31戸で割った1農家当たりの経営耕地面積は108aとなる。これは、個別経営の水田作作付延べ面積規模0.5～1.0ha未満層（以下「個別経営の0.5～1.0ha層」という。）の経営耕地面積（114a）と概ね一致するため、この階層の個別経営と集落営農の農家1戸当たり農業所得をみると、個別経営の0.5～1.0ha層は8万円であるのに対し、集落営農では、スケールメリット等によって農業経営費が小さいこと等により43万円となっている。

また、構成員農業労働1時間当たり農業所得で比較すると、個別経営の0.5～1.0ha層が122円であるのに対し、集落営農は、個別経営の0.5～1.0ha層よりも農家1戸当たり農業所得が高いことに加え、効率的に作業が行われているため労働時間が少なく、3,595円の水準となっている。（図3、表4参照）

図3 集落営農（20ha以上層）及び個別経営の0.5～1.0ha層の農業所得

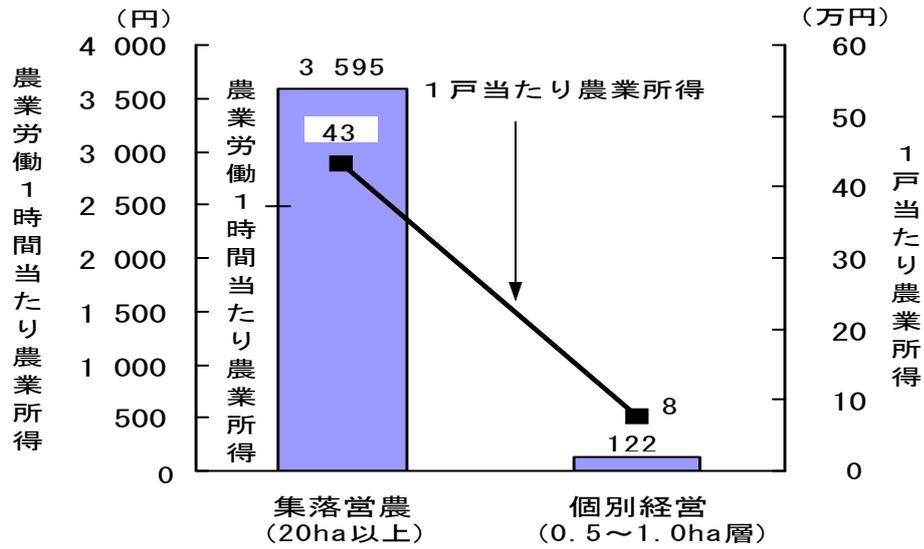


表4 水田作経営の集落営農20ha以上層及び個別経営の0.5～1.0ha層の概要

区分	単位	集落営農20ha以上層		個別経営 0.5～1.0ha層 ②	指数 ①/② × 100	
		1組織当たり	構成農家 1戸当たり ①			
経営概要	経営耕地面積	a	3 337	108	114	95
	水田作付延べ面積	〃	3 631	117	70	167
	稲作付面積	〃	1 367	44	67	66
	構成農家数	戸	31	—	—	—
	構成員(家族)農業労働時間	時間	3 738	121	633	19
農業収支	農業粗収益	千円	34 536	1 114	1 038	107
	農業経営費	〃	21 098	681	961	71
	農業所得	〃	13 438	433	77	562
	構成員(家族)農業労働1時間当たり	円	3 595	3 595	122	2 947